

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol.14

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



ひとりじゃないよ、ぼくがいる

OTHER BROTHER.

作者 サイモン・フレンチ
 訳者 野の水生
 出版社 福音館書店
 発行 2018年3月
 ISBN 978-4834082869

review



邦題のように『もうだいじょうぶだから。ぼくがいる』とキーランがボンに告げるまでの心の軌跡が鮮やかに描かれています。

みすばらしい格好をして、男子なのに長い髪を三つ編みにしている変な子が転校してくれば、いじめの標的になってしまいうもの。その子、ボンが自分のイトコだということ。クラスの人気者グループにとり入ろうとしているキーランとしては、当然、ボンをかからかい、バカにしなければなりません。キーランが好きなジュリアは正しい心根を持ち、毅然とした態度で、ボンを守ろうとしていました。彼女に問いたたされて、キーランは自分に向き合うことになりました。学校での自分の立場を守るためにいじめる側にまわっていたキーランは、ボンやジュリアと心を通わせたことで、正義に立ち返ります。

特集

いじめる側の立場

人を無視したり、からかったことを、ずっと覚えていて気に病んでいるような人は、いじめる側に向いていません。そんなことしたっけ、とケロリと忘れている調子の良さや、いじめを正当化できる悪気のなさが必要なのです。そうした人はいじめていたことなど、気に留めていないはず。いじめだとさえ思っていないので、それもまた懐かしい思い出です。なんて言ったりします。生涯いじめを続けながら、人の痛みに気づかずに一生を終える。時には、ニュースで見た酷いいじめ事件に憤慨することさえあるでしょう。それがいじめる側の立場なのです。さて、自分がいじめる側に立っていたことに気づかされて愕然とする、そんな主人公の転機の訪れを描く児童文学作品があります。今まで自分は何をやってきたのかと冷や汗をかき、そこから本当の人生が始まります。痛みを孕んだ、いじめる側の自覚の瞬間を鮮やかに描き出す物語を紹介します。



ぼくたちがギンターを殺そうとした日

Warum wir Günter umbringen wollten.

作者 ハルマン・シュルツ
 訳者 渡辺広佐
 出版社 徳間書店
 発行 2020年3月
 ISBN 978-4198650704

review



敗戦直後の北ドイツの農村に逃れてきた東プロイセンの難民の子、ギンターは、もごもごしかしやべることができず、頭が足りない子と思われて、まわりの子どもたちから嫌われていました。フレディと仲間たちは、ギンターを煩わしく思っている、手ひどくいじめてしまっています。学校に来なくなったギンターが、大人に言いつけることを恐れた仲間一人は、彼を殺そうと提案します。ナチスドイツは頭のおかしい人々を処刑していたのだから、殺しても構わないのではないかと。恐ろしい計画を進めていく少年たちの前に現れたのは、戦場から帰ってきた青年ヴィリー。自分たちの悪意にさえ気づいていない少年たちは、ヴィリーに心の死角を見せつけられて、ようやく立ち止まり考え始めます。戦争で傷ついた大人が、少年たちに伝えようとしたものに注目です。



夜の学校

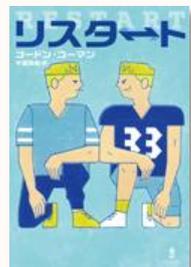
作者 田村理恵
 出版社 文研出版
 発行 2012年11月
 ISBN 978-4580821880

review



ずれにしていた蘭は、雫の立場に立つたことで、その辛さや悲しさを感じとり、捨れた世界と捨れた心を元に戻そう。蘭はこの世界の問題を解決できなく現実の世界を変えていく決意をします。

優等生の委員長でリーダーとしてふるまう小学六年生の蘭。母親に追いつかれて塾に通い、中学受験のプレッシャーと闘う毎日に疲れていたのか、塾のあるバス停を乗り過ごします。終点の公園にある灯台が逆転した異世界に運ばれます。両親は蘭を優しく気づかい、中学受験も存在しない。昼夜が逆転した世界の夜の学校で自分がクラスの中でいじめられていることを蘭は知りません。クラスの女王としてふるまう雫は、蘭を執拗に責め立てます。その敵意は、現実の世界で自分が雫に向けていたものでした。雫を仲間はずれにしていた蘭は、雫の立場に立つたことで、その辛さや悲しさを感じとり、捨れた世界と捨れた心を元に戻そう。蘭はこの世界の問題を解決できなく現実の世界を変えていく決意をします。



リスタート

RESTART.

作者 ゴードン・コーマン
 訳者 千葉茂樹
 出版社 あすなろ書房
 発行 2019年7月
 ISBN 978-4751529393

review



屋根から落ちて頭を打ち、これまでの記憶を失った少年、チェース。学校のフットボールチームのスタープレイヤーだったと教えられたものの、大人しい生徒たちがチェースに怯えているのは、自分がチームの仲間たちとともに、過激なイタズラやいじめを繰り返していた学校一のワルだったからだとも知り驚きます。チェースは手柄までも変わり、善良な少年になっていました。人の心の痛みをわかるようになったチェースが過去の自分の罪に向きあい苦しむ姿や、新しい彼を信じようとする生徒たちの気持ちや、チェースを過去の姿に引き戻したワル仲間たちの思考が語られながら、胸を熱くさせる物語は続きます。登場人物たちの心の機微がとて愛おしく感じられる、人生をリスタートさせた少年の素敵な物語です。

特集

いじめ (総合)



もうすぐ飛べる!
 (越水利江子)
 大日本図書 2000年

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.14

2020年11月1日発行 ● 発行人 きむらともお

事務局会社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter
 連携しています。

© tomoostretch